



コールセンターからの、小さなよみもの

2022年
5月

2022年5月31日

Vol
160

家の設計との意外な共通点って？ 資産形成も金融資産全体の設計図を描くことが重要です。

コロナ・ショック以降、比較的堅調な推移を見せてきた世界の金融市場に先行き不透明感が広がっているようです。終息の兆しが見られないロシア・ウクライナ情勢に加え、物価上昇や金利上昇を背景にした米国の景気減速懸念やマイナス金利政策の終了を視野に入れる欧州の動向など、マーケット参加者の懸念事項が散見されます。

「いつ下げ止まるのか」「このまま保有を続けるべきか」というご質問を多くいただきますが、足元で、「いま〇〇ファンドは買いか」「いまのオススメはどのファンドか」という個別の投資信託に関するご相談も増えています。長期の資産形成に投資信託を活用する場合、ファンド選びの前に、じっくりと考えたい、大事なことがあります。それは、金融資産全体の設計図を明確に描くこと。今回は、資産形成における金融資産全体の設計図の描き方とそのポイントについてお話したいと思います。

■金融資産の全体設計図のイメージ



■ 当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。



コールセンターからの、小さなよみもの

2022年
5月

金融資産全体の設計図の描き方とポイント①

【基礎/預貯金】

まず、流動性・安心感のための預貯金を基礎に確保します。家を建てる時に、コンクリートで基礎を固めるのと同じように、日々の生活費や使途が決まっているお金などは別に確保し、金融資産の基礎としましょう。強固な基礎無しには確りとした家が建たないのと同じように、まず、いざというときに使うことができる預貯金を確保しておくことが重要です。

【ぶれない土台/バランスファンド】

基礎を確保できたら、多少の揺れにも動じにくい、「ぶれない土台」を作ります。預貯金の一歩先とも言える「ぶれない土台」には、バランスファンドが有力候補となります。マーケットは常に変動するばかりか、ときに〇〇ショックのような大きな下落も起こります。そんな市場急変時において、「ぶれない土台」は、金融資産全体の揺れを抑えるばかりか、心の動揺を抑える役割も担ってくれます。

数あるバランスファンドから1本を厳選するよりも、複数のバランスファンドを「ぶれない土台」に据えることをオススメします。「ぶれない土台」を、相対的に値動きが安定的な債券に多めに配分する“守りバランス”と株式の比率が高めの“前向きバランス”の二層に分け検討するのが良いでしょう。





コールセンターからの、小さなよみもの

2022年
5月

金融資産全体の設計図の描き方とポイント②

【株式の柱/株式ファンド】

強固な基礎、「ぶれない土台」の次は、金融資産を大きくするために不可欠な「株式の柱」です。家を建てる時に、大黒柱をコロコロ取り替えたりしないのと同じように、10年・20年先まで確信を持てる株式ファンドを選ぶというのが大事なポイントです。なぜなら、時間軸と覚悟を決め、「この1本！」と選んだ納得感が、途中訪れるであろう大きな下落局面を乗り越えるための拠り所となるからです。

もし、基礎・「ぶれない土台」に手元資金を投じた結果、まとまったお金が用意できないというときは、コツコツと積立投資を行なうことをオススメします。とはいえ、始めるからには、「とりあえず一万円」ではなく、本気の金額でスタートすることが重要です。（詳細はこちら→[Vol.147資産形成のはじめの一步。制度も活用した「本気の積立」をオススメします](#)）



【インカムの器/分配型ファンド】

もし、手元に定期的に現金が必要ということであれば、「インカムの器」、つまり定期分配型ファンドを検討しましょう。一部解約機能である分配の仕組みを賢く利用することも有用な作戦と言えます。





コールセンターからの、小さなよみもの



2022年
5月

設計図に沿って、下から上へと適切なパーツを選びましょう

家を設計するときと同じように、資産形成においても、金融資産の全体設計図を描くことが大切です。もちろん、ご年齢や金融資産など、一人ひとりの条件は大きく異なりますから、設計図に正解はありません。たとえば、30年先に大きな家を作ることを目指し、「ぶれない土台」よりも「株式の柱」に多くの資金を振り分けようとする方や、基礎と「ぶれない土台」を厚めに、多少の揺れにもビクともしない強固な家づくりを目指す方など、十人十色の設計図が出来上がるはずです。

いずれにしても、まずは金融資産全体の設計図を描くこと、それから、下から上へと、それぞれのパーツに相応しい投資信託を選んでいくことがポイントです。



nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00